

化学関係建物の新築について

大 木 道 則 (化学)

現在(昭和56年12月18日),時計台裏の旧施設部(旧地震研究所)建物がこわされていることは、大部分の方が御存知と思いますが、ここに理学部校舎C棟(仮称)が建設されて、化学教室の大部分と、地殻化学実験施設ならびに分光化学センターの一部とが入居することになります。この欄をかりて、このC棟のあらましを御紹介しておきます。

C棟は、延面積3790㎡で、地下1階・地上6階・一部7階の建物となり、昭和57年末頃完成、昭和57年度内には入居の予定です。この建物の外観はモデルの写真(表紙・暗色の部分)でご覧いただきたいと思いますが、本郷キャンパスの中心地区ということもあって、工夫がこらされています。各廊下は4号館と同じ平面でつながり、地下1階と1階とは、化学新館ともつながります。これに関連して、4号館にエレベーターがもう1基増設されることになっています。

しかし、C棟だけでは、化学教室の現有面積、地殻化学実験施設、分光化学センターなどを全部収容することは不可能です。そのため、最終的には、化学館の旧館(略してA棟)を改装して入居することになっています。また、工事が完成した時は、中庭にあるアイソトープ研究室もとりこわされて、A棟の中に収容されることになっています。化学教室としては、A棟を改築することを原案としておりましたが、建築関係の方々の強い希望によって、A棟は、少くともしばらくの間、保存されることになったわけです。

思えば、化学教室としては、長年の希望がやっ

とかなえられることになりました。大正初期に建設された建物(A棟)が老朽化したとの理由によって、化学教室が改築の希望を述べだしたのは昭和40年頃からだったでしょうか。しかし、その希望は、大学紛争、その上立川移転問題などがからんで、なかなか実現しませんでした。その中でも、A棟の老朽化は進んでいきます。天井が落ちたり、地震のたびにガス洩れがしたり、窓枠が落ちてきたり、そのたびに、われわれはいらだたしさを感じてきました。しかし、ようやくそのような事態から解放されることになったわけです。化学教室としては、大変うれしいことと考えています。これもひとえに、歴代学部長、特に西島現学部長のお骨折のおかげで、ここに改めて感謝の意を表したいと思います。

最後になりましたが、工事に従って、周辺地区の方々、特に物理教室には御迷惑をおかけしているわけですが、なにとぞ御寛恕のほどお願い申し上げます。